

## 2023年度 事業報告

### ●はじめに

2023年度はコーダイ創立15周年の年でしたが、記念行事を大々的に開催するのではなく、コーダイフェスタとドッキングした形で開催しました。そして、15年間継続してコーダイで活動され、コーダイ発展に寄与された講師、受講生、スタッフの皆さんに感謝の意を表しました。また、今年度は新型コロナの影響をほとんど受けずにコーダイ運営ができた年になり、コロナ以前のコーダイに戻りつつあります。

しかしながらインボイス制度の導入による大幅な消費税額のアップ、賃借料を始めとした各種値上げ、教室不足等コーダイを取り巻く環境が大きく変りつつあり、その対応に注力してきました。快適な学習環境を目指すコーダイにとっては、厳しい状況下に置かれつつありますが、新学習システムの構築などに取り組んでおり、新たな思考を導入しながら、今後とも活動を継続して行きます。

厳しい環境下にあります。コーダイ関係者が結集して「子どもから高齢者まで笑顔と活力に満ち溢れた生涯学習校」を目指して、積極的な活動を継続して行きます。

今まで以上に皆様方のご協力、ご支援を賜ります様よろしくお願いいたします。

### ●事業報告

1. 「世代交代元年」と位置付けた今年度は、形は出来ましたが完全な形での世代交代には今しばらく時間を要します。しかし、活力・意欲は十分感じられ副理事長会議、企画運営会議、各種委員会等で議論をしながら進めることにより新しい思考も入りつつあります。急ぐことなくじっくりと進めて行きます。

2. 2024年度、2025年度に向けて新学習システム構築などの検討に着手し、実施可能なものは2024年度から実施することにしました。

例えば25日26コマの授業を1日増やして26日26コマの授業に、授業予定も2月一杯まで組み込み、修学旅行を卒業旅行と改め3月初旬に実施することにしました。

そして、コーダイのビッグイベントはより受講生が楽しめるイベントを目指して検討を継続中です。

また、昨年度に引き続きCDが活動し易い環境創りを推進した結果、曜日CD会議の在り方の改善、ハラスメントの窓口設置、緊急時のCD代行要員登録システムなどを構築することが出来ました。同時にCDとの情報共有化という観点からスタッフサイトを設けて最新情報を必要な時に即、入手できるシステムも構築しました。

一方では、CDとの意見交換・サポートも含めて自主活動の在り方を検証し「午前は学習、午後も楽習」を目指して検討を継続中です。

3. 科目の新陳代謝は継続して推進しており、また、コーダイ市民公開講座の充実を図ると同時に春・夏の長い休みに照準を合わせた教養講座の開講も実施し始めました。

また、HPからの提案制度を見直し、従来よりも提案し易いシステムにした結果、提案数も増え、受講生からの提案が講座に採用される状態になりつつあります。

そして、教科研究グループが主管する講座改革委員会では魅力ある講師の開拓も進めながら、カリキュラムの内容・講座の検証等を審議し、60科目の開講を決定すると同時に、科目の休講ルール案を作成し検証を進めています。

また、昨年から実施している各科ごとの期末アンケートについては、講座改革に結び付け易い内容に少し見直す必要があり、今後の課題として取り組みます。

4. コーダイの事業はどうあるべきかと事業の見直しを計画に挙げましたが、残念ながら効率の良い事業を組み立てるには、今しばらく時間が必要です。

今期は従来から活動している事業を中心とした活動となりましたが、新たに地産地消テーマを取り込み地域活性化の位置づけとしました。

また、養父市と学習連携協定を結んでいましたが期中でこの連携を解消し、活動が容易な近場に切り換えて活動する様にしました。

子ども事業はコロナの影響もほとんどなく、コロナ前に近い活動が出来ましたが、年初計画に挙げた新たなテーマに取り組むことは出来ませんでした。

寄附金活動については更なる寄附金を募り、コーダイの柱である社会参加活動に積極的に活用できる様に検証を継続中です。

5. デジタル化による業務の効率化は計画よりも少し遅延しています。現状ではコーダイ内での謝金・交通費の支払い等に関する支払いシステムを構築し運用中です。これにより学習グループ、教科研究グループと経理チーム間のスムーズな連携・ミスの減少・事務の効率化が図れました。また、電子決済システムは実施レベルには至らず継続検討となりました。

一方、世の中はスマホ、パソコンの活用が必須になっており、この面では研修やスキルアップ講座を実施し啓蒙に努めると同時に次年度以降も継続します。

6. ホームページは今までよりも見易く、使いやすく、同時に豊富な情報を提供できる様にリニューアルしました。一方、Line caféの登録者も約2,200名と大幅に増え、情報伝達のスピード化に活かされる様になりました。

また、コーダイの知名度アップの一つとしてプロモーションビデを作成し、次年度以降活用できる様にもなりました。

今後は関心度の高い情報発信を心掛けながらコーダイの知名度アップに結び付けられる様な活動を行って行きます。

7. 今期はインボイス制度の啓蒙に時間をかけスムーズな導入に心掛けました。一方で経理は人の出入りが激しく、計画していた財務システムの強化に支障をきたしましたが、次年度に向けて対応できる様になりました。

一方では、賃借料アップによる教室変更や従来からも発生している予約後の教室キャンセルなどの対応が困難をきたす様になってきており次年度以降、関連グループと調整しながらスムーズで時間を要しない方法を検討します。

次年度以降は教室の分散化という大きな課題があり、この課題を克服し受講生に「心地良い居場所」を提供できる様に、コーダイ関係者が一丸となって取り組む必要があります。その為にも、全員のベクトルを合わせ「今、何を求められ、何をすべきか」を絶えず念頭に置きながら、皆が協調しながら活動結果を出す年度にします。

## ●学習グループ

コロナ禍を経験して、行動・思考等の社会環境が大きく変化しました。こうした時代の流れに即し、新しい考え方や手法を取り入れ「ニューコーダイ創造」活動に積極的に取り組んで行かねば、受講生の皆さんに魅力あるコーダイ像を提供することは出来ません。堅持すべきコーダイ理念・目的と変えるべきもの（方法・手段）を明確にし、取り組んできました。

### 1. CD とのコミュニケーション強化について

期初（4～5月）曜日担当とクラスCDとの面談で課題を抽出し、学習グループ内で共有解決策を検討しフィードバックを行いました。又、コーダイホームページ上に「スタッフサイト」コーナーを設けて必要な情報を掲載し、情報の共有化を図りました。今年度は各曜日から2名の学習委員を選出し、学習グループ全体の課題を討議し、問題の共有化と解決策を見出すことが出来ました。

### 2. 学習事業（ジョイフルゲームズ及びフェスタ）の見直しについて

ジョイフルゲームズを見直し、「コーダイ健康まつり」と改名し大阪城公園音楽堂を起点に“ウォーキング”主体のクラス対抗競技としました。概ね、好評でした。

フェスタは創立15周年行事とタイアップし、豊中市民文化芸術センターで4年ぶりに一堂に会して行いました。

### 3. 新学習システム構築について

教科研究グループと協働し、2024年度カリキュラムの検討を行いました。2024年度は、26日26講座（1日2コマ講座の廃止）とします。

又、秋季遠足を廃止し2学期「自主活動」時間の十分な確保と3学期の講義充実を図ると同時に成果発表・修了式後の3月に卒業旅行を実施することにしました。

### 4. 教務事務について

デジタル化を図り、効率的な処理と記録保存の一元管理が可能となりました。

### 5. 社会への参加活動及び支援方法の再構築について

論議不十分で2024年度に課題を持ち越します。

## ●教科研究グループ

本年度は「魅力のある科目」作りとコーダイの認知度向上に努めました。継続科目については、科目内容の新陳代謝を図れるよう受講生の方々の生の声をお聞きする科目別アンケートを実施しました。その結果を踏まえて、現行科目の問題点を抽出し、カリキュラム

の改善に取り組みました。加えて科目内容をより理解いただく為、特に応募が少ない科目(分野)についてはチラシを作り、冊子として受講生等に配布しました。

新しい「魅力のある科目」を作る為、広く受講生・スタッフの方々から新たに新規科目の提案を募りました。提案科目の中で検討が決定した科目について、講座構築検討メンバーを応募し、新規科目提案を作り上げていただきました。

コーダイ市民公開講座について本年度より大阪府と共催で開催する事が出来、府下100箇所以上の施設にチラシの配架が出来ました。その結果、ほぼ毎回100名を超える来場者に拝聴いただき、しかも、一般の方に40%以上参加いただきました。講座開講の目的であるコーダイの知名度向上に寄与出来たと思います。

1. 現状確保出来る教室数と近々の応募者の動向を踏まえて、2024年度の開講科目を新規2科目加えて60科目としました。

新規科目「自然科学と防災・減災を学ぶ講座」は大阪公立大学都市科学・防災センターの全面協力を得て開講する事が出来ました。

2. 応募者の推移と使用出来る教室の状況から判断しますと2025年は開講科目を増やす事は難しい状況です。その中で「魅力ある新講座」を作り開講するには、現行科目を休講する事が必要となります。そこで、翌々年の休講検討候補科目の判断基準を協議の上、決めました。2025年度の休講検討候補科目は5科目でした。
3. 昨年より実施しましたクラスアンケートを読み込み、カリキュラムの改善に繋げるよう課題を抽出し、カリキュラム改善を行いました。受講生の7割を占める現行受講生に対して、カリキュラムを変更した科目(分野)についての紹介チラシ冊子を作成、配布して科目の魅力を伝えるように努めました。
4. 講座の分類を受講生目線で現状より判り易い様に変更し、科目選択の判断に役立てていただけるようにしました。
5. 新科目提案制度について従来の提案制度に加えて、新たに翌々年開講を目指す新科目の提案制度(オーダーメイド講座)を始めました。広く受講生・スタッフに提案を募った結果、40を超える科目提案をいただきました。提案(オーダーメイド講座)の内、2科目を2025年度新規科目提案として検討を進める事を決定しました。2科目について科目構築メンバーを募り、科目のコンセプト・講師発掘・カリキュラム作りを行っていただきました。
6. 現状行っている諸々の講座について、ターゲット層並びに開講目的を明らかにしました。  
具体的には短期講座は次年度以降に通年講座として開講する候補講座。コーダイ市民公開講座は受講生並びに一般の方を対象とし、受講生には幅広い知識習得の場、一般の方には広くコーダイを知っていただく為の講座としました。教養講座は受講生を対象とし、コーダイ生であることのメリットを感じていただくようにしました。講座開設に際しては夏休み・春休み等、授業と重ならないように開催する事としました。
7. 講師の方を探す手段として講師リストの整備(講師人財バンク)を行いました。
8. コーダイ受講生のみならず、コーダイを世間一般の方にもっと知っていただく機会と

する為、本年度は大阪府と共催でコーダイ市民公開講座を開講する事にしました。講座のテーマについては分野の異なる題材で7回開講しました。大阪府のご協力を得て、大阪府下110箇所にチラシの配架を行いました。

応募者もほぼ毎回100名を超え、コーダイ受講生以外の一般の方の参加割合も40%を超えており、コーダイのPRにも貢献出来たと思います。

9. 教養講座は夏休みに4講座、春休みに1講座を開催しました。

10. 高齢者教育機関との交流として

①認定NPOかわさき市民アカデミーの30周年記念式典を利用して、特に新規講座開設に関して意見交換を行い、今後相互間で協力していく事になりました。

②11月に中国山東省老人大学より使節団が来校され、これから急激な高齢化を迎える中国に対して、コーダイが行っている高齢者の生涯学習について説明を行いました。

③「関西圏・首都圏シニア大学交流会」は本年当校が当番校にあたり、関西圏より10校が参加して意見交換を行いました。

④大阪の高齢者学習校の集まりである「大阪シニア大学交流会」を7校に参加いただき開催しました。

11. 2025年開講科目については2024年3月に決定しました。今後はこのサイクルで開講科目の決定をします。これにより授業開講時にはCDの方に授業に専念いただけるようにします。

## ●事業グループ

2023年度より、事業推進・子ども事業・ファンド・校友会のチームが統合の上、新たに事業グループとして活動をしてきました。

統合による相互連携の効果が充分発揮されなかったことが今後への課題となりました。

### <事業推進チーム>

1. 救命措置講習会を6月に4回、CDの参加を中心に大阪府中央消防署の協力のもと行いました。

2. 特殊詐欺被害防止対策講習会は、コロナの影響で数年間実施出来ませんでした。ようやく1月に歴史博物館において、大阪府警察本部・東警察署による寸劇を交えた防犯講座を100名の参加の下に実施することが出来ました。一般市民の皆様への呼びかけも積極的に行い20数名が来られました。

3. 音楽会につきましては、年度末3月に伝統ある大阪高等学校の和太鼓のコンサートを開催しました。是非、これからも若者へエールを送っていきたいと考えています。

4. 恒例となりました大阪マラソンボランティアには今年度も多くの受講生の皆さんに参加いただきました。

5. 平成26年に締結した兵庫県養父市との学習事業連携協定は令和5年11月に終了しました。今後は、協定の枠にとらわれない自由な発想のもとに交流を続けていくことで合意しています。

さらに、毎年の養父市との契約による新米については、2023年度も大阪社会福祉法人等を通じて子ども食堂・母子世帯・未就労世帯等への配布をしました。

#### <子ども事業チーム>

毎年5月から11月にかけて実施している「子ども科学フェスティバル」「科学実験教室」「伝統文化親子教室」は市民・府民の皆さんに人気があり、また期待もされています。2023年度も当初計画通り行い、多くの方々が参加されました。自治体等の支援金もほぼ予定通り支給されており、計画どおり推移しています。

#### <ファンドチーム>

寄附金募集について、その対象者及び募集時期を設定の上、募集活動に入りました。寄附金活用については、事前の利用申請を前提に各事業に振り分けを行いました。

#### <校友会>

校友会を知ってもらう為の、魅力発信や活動内容の見直し及びコーダイ行事への参加を積極的に行ってきました。校友会の位置付けや校友会を構成する団体について不明確との声が依然大きく、これからの大きな課題であります。

## ●情報管理グループ

#### <情報管理チーム>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講決定後、入学案内など発送し、受講生名簿・名札など入学準備の体制づくりを行いました。
2. 受講生・講師・スタッフの情報をデータベース化し、より個人情報の管理運営に努めました。
3. ホームページでは募集要項を掲載し、応募状況をリアルタイムに発信しました。結果、申込フォームから1,200件以上の申込がありました。
4. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化、並びに修了証書の発行を行いました。
5. 事務所内ネットワークシステムとパソコンなどの機器の保守管理を行いました。

#### <デジタル化推進チーム>

1. ホームページのスタッフサイトの活用を進めました。
2. パソコン・スマホのスキルアップ講座を2講座実施しました。
3. オンラインシステムの理解度を高めることを目的に他グループと協働し、スキルアップを図りました。
4. SNS(Facebook・Twitter・Lineなど)の会員数の増加に務めました。

#### <デジタル化推進プロジェクト> HP リニューアル

1. 出席簿・講座実施報告書・講師承諾書などデジタル化に取り組みました。
2. コーダイネットワークの整備(Wi-Fiなど)に努めました。

## ●広報グループ

広報グループはコーダイの認知度を高めるための活動をメインに、愛称コーダイを浸透させる施策を遂行しました。

### <広報ツール>

1. 広報誌「れいんぼー」に関しては、コーダイ行事をはじめ、様々な分野で活躍されている受講生・講師・講座内容などを紹介し、コンテンツのレベルアップを図りました。また、講座説明会、公開講座など機会ある毎に配布し、コーダイの認知度アップにも繋がりました。
2. 「学校案内」改訂版を作成。リニューアルしたHPと連動させながら内容を一新し、コーダイの魅力を伝えるとともに、あらゆる機会を通じて各方面に配布しました。
3. コーダイの認知度アップのためにプロモーションビデオを制作しました。
4. 「チラシ」「封筒」「名刺」等コーダイが発行するものに関しては、フォーマットを統一し、印刷申し込みの流れを確立し、印刷物の削減に取り組みました。

### <パブリシティ>

1. ラジオ出演や新聞掲載の予告を「コーダイ通信」で定期的にHPやSNS等にアップすることにより、コーダイの知名度アップを図りました。

### <HP・SNS活用>

1. コーダイを認知してもらうための最大ツールであるHPをリニューアルし、見やすくわかりやすく親しみのあるものにしてイメージアップを図りました。SNSに関しては、まずは受講生全員のラインカフェへの登録を促進しました。  
(2023年3月時点 1,276名→2024年3月時点 2,157名)
2. ラインカフェからの情報提供を頻繁に行い、イベント・公開講座等の申込みラインから出来るようにしました。

## ●総務グループ

「世代交代元年」と位置付けてのスタートでしたが、諸要素が入り交じり、業務の引継ぎをはじめ、事業計画に沿った業務遂行は、スムーズに出来ませんでした。

計画的な人材の発掘・育成及び人事異動が欠かせないと感じる一年でした。

日常業務をこなす人員の確保、教室利用・変更ルールの確立など手間の削減と時間の有効活用が今後の課題です。

経理・事務局業務の通常課題の追及は当然のことながら、組織全体の運営に関わる規定やルールを明確にし、併せてその周知と徹底がコーダイ全体の急務と位置付ける必要があります。

### <経理チーム>

1. 財務システム強化のため、収支状況の「見える化」を目指しましたが、経理チームメンバーの固定化が出来ず予算入力も大幅に遅れ、経理管理が充分には出来ませんでした。

次年度はより早く予算入力を行い、再度の「見える化」に挑戦します。

2. 毎年講師の方へ提出すべき支払調書のシステム化を行うことが出来ました。その結果、2024年からは毎月チェックを行うことが出来る体制が構築できました。
3. 経費削減の一環として、新たに近畿労働金庫から、振込み業務（基本 CD・スタッフ交通費を除く）をスタートさせました。それにより、振込手数料の削減を図ることが出来ました。
4. 学習グループ教務事務との連携では、CD への交通費と立替金の書式を変更し、よりスムーズな事務の流れが出来ました。  
今後も各種書類をより判りやすくすることを目的に改善に努めます。
5. インボイス制度の 10 月施行に向け、「講師承諾書」の改定をはじめ、諸準備を進め制度の周知を図りました。

#### <事務局チーム>

1. 昨年 5 月、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同等の 5 類に分類されました。  
しかし、感染は完全に終息しておらず、その時々状況に応じた対応をとりました。
2. 昨年 7 月に教育会館 B 棟が解体され、新たに東館が利用出来るようになりましたが賃借料の高さから、利用回数や次年度以降の利用について検討しました。引き続き、教室の新規利用先の開拓と教室の効率的運営に努めていきます。
3. 2025 年 1 月の新棟への移転にともなって発生する諸課題に対応する委員会において、文書・備品等の整理と管理方法等についての検討を開始しました。
4. 認定 NPO 法人について、昨年度の大阪市に続いて、今年度は大阪府の更新手続きが完了し、8 月に認定され、新たに指定期間が 2028 年 10 月 29 日までの 5 年間となりました。今回の大阪府の更新は担当者全員が初めてという経験不足や前回更新時の関連資料が少ないなかで、対応に苦慮し文書取扱管理の必要性を痛感しました。
5. 防災や危機管理対応については、2023 年度は十分な対応が出来ませんでした。今後は教室が分散化することから各施設と協力し、防災活動の展開を検討します。

## ●募集委員会

2024 年度受講生募集は、教室の分散化に伴う定員数の見直し、講座内容の変更も行った上で開始しました。

募集開始後、応募者の少ない 1 科目の開講を見送り、最終的に通年講座 60 科目及び短期講座 3 科目で、定員はそれぞれ 2,403 名、185 名としました。また、応募期間を従来よりさらに短くし、早期に受講確定が分かるようにしました。

募集活動においては、自治体への広報依頼を早めに行い、募集案内冊子の配布先の開拓も実施しました。しかし、冊子の発送はしているが配架がなされていないとの状況は例年通り発生しており、今後の喫緊の課題です。

講座説明会は会場を 5ヶ所に絞り込み計 9 回実施し、前年を上回る参加をいただきました。

たが、会場の選定はさらに検討する必要があると考えています。

募集案内締切時点での応募総数は 2,604 名、コーデイ初めての方の応募は 662 名でした。コーデイ受講が初めての方の応募減少傾向に歯止めは掛かりましたが、さらなる新規開拓の工夫が必要です。また、コーデイ初めての方を含め、受講申込をして頂いた方で期日までのご入金がなく、キャンセル扱いとなった件数が例年より増加しました。原因の精査が必要であると考えています。

今回も特定科目への集中傾向は続いています。第一希望科目が抽選で選外になられた方は 600 名になりました。選外の方の半数以上は他の科目の受講が決まりましたが、コーデイ受講を断念せざるを得ない方も多くおられます。

最終的には 2,347 名の皆様の受講が確定しました。

ご応募頂きました皆様に感謝申し上げるとともに、より魅力のあるコーデイを目指して努力して行きます。